

第 1 期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

北海道教育大学

平成 2 3 年 5 月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(参考)

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（6項目）のうち、1項目が「良好」、5項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2項目が「良好」、4項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「教員としての資質を育成するために、教育科学、教科教育と教科専門の理論と教育現場における教育実践との有機的な結合を図り、教育内容を充実させる」について、理論と教育実践の往還という視点から教員養成カリキュラムの分析を行うとともに、「全学教員協議会」の実施（平成 21 年 8 月下旬）や「教員採用試験模擬試験」を教員養成課程等の学生に受験させての調査を実施していることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「へき地・小規模校教育への理解を深め、実践現場を体験させることで、地域に生きる教員としての意識を形成する」について、教育実践フィールド科目群に「へき地校体験実習Ⅰ・Ⅱ」、教養科目に「へき地教育論」を開講したほか、へき地教

育スーパーバイザーの配置及び「へき地教育と教師教育」フォーラムや「学生ワークショップ」の開催等、へき地教育を実施していることは、地域に生きる教員にへき地・小規模校教育への理解を深めさせる点で、特色ある取組であると判断される。

- 中期計画「中期計画に記載されていない措置等」について、環境関連科目を開設したほか、現代的教育ニーズ取組支援プログラム「持続可能な社会実現への地域融合キャンパス―東北北海道発ESD（持続可能な開発のための研究）プランナー養成・認証プロジェクト」に取り組んでいる。また、グローバル環境教育推進会議を設立するなど各種の事業を推進しており、これらは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「新たに発足させた学校臨床心理専攻の成果を踏まえ、教育現場の課題に応える実践的な指導力を養成するため、臨床的教育の充実を図る」について、大学教員が現職教員大学院生の勤務校へ訪問する「勤務校訪問型スーパーバイズ」を実施（平成20年度・延べ14回）するとともに、「教育臨床実践メンター」を配置して、現職教員大学院生の教育実践・研究支援を実施（平成20年度・延べ52回）していることは、特色ある取組であると判断される。

（顕著な変化が認められる点）

- 中期計画「教員としての資質を育成するために、教育科学、教科教育と教科専門の理論と教育現場における教育実践との有機的な結合を図り、教育内容を充実させる」について、平成16～19年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成20、21年度の実施状況においては、「良好」となった。（「優れた点」参照）

② 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 平成16～19年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（7項目）のうち、2項目が「良好」、5項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、2項目が「良好」、5項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「大学教育情報システムによる学生への統合ネットワーク環境を整備し、学生の修学及び生活全般への支援を行う」について、大学教育情報システムを平成16

年度から年度ごとに整備しており、平成 19 年度には学生の修学用の個人ページを設けるとともに「掲示板」機能を付加し、携帯電話から休講通知等の修学情報を取得できるようにしたほか、履修登録のためのサポート体制を強化し、ウェブサイト上に「学生支援・就職支援」のページを作成したことは、学生の修学及び生活全般への支援として実質的に機能している点で、優れていると判断される。

- 中期計画「指導教員（アカデミック・アドバイザー）制度とオフィスアワー制度を全学的に実施し、一層の充実を図る」について、指導教員（アカデミック・アドバイザー）制度で、全教員に「指導教員サポートマニュアル」を配布したことは、学生の勉学意欲を回復させる指導体制を整備している点で、優れていると判断できる。また、大学教育情報システムの教員用ページに学生の修学情報を入力・出力できる「サポートファイル」のページを設け、同時に、キャリア形成・就職支援マニュアルを作成したほか、学修サポートルームを全キャンパスに開設し、オフィスアワー制度を設けたことは、学生支援体制を整備し、実質的に機能している点で、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「中期計画に記載されていない措置等」について、再編基本計画の策定による教養教育の充実、5 キャンパスの特色化及び重点化を図るほか、キャンパス間ネットワークを構築し単一大学としての統一を図っている。また、各課程を地域の伝統と特色にあわせたキャンパスごとの機能分担システムに転換すべく再編後の新教育組織を確立したことは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「1 年次教育をより充実し、共通する科目及び様々な教育体験とその理論化を可能とするモデル・カリキュラムを作る」について、1 年次教育において現代の課題にこたえる科目、及び「教育フィールド研究」等のモデル・カリキュラムを設置したほか、各キャンパスに地域を重視した科目「北海道スタディズ」を設け、双方向遠隔授業システムを活用している。これらの取組は、体験学習や教育実践を通じ地域性を考慮した教養教育の充実を図っている点で、特色ある取組であると判断される。

③ 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

（判断理由） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4 項目）のうち、3 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、3 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の

現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「ネットワーク環境の充実を図り、学習支援環境を整備する」について、図書館情報システム上に学生・教職員の個人ページ「マイライブラリ」機能を設置し、借用図書の一覧・文献複写・資料依頼等をネットワーク上で可能とするなど利便性を図ったことは、優れていると判断できる。また、「情報セキュリティポリシー」を策定し、「セキュリティ対策」「コンピューターソフトの管理方法」を授業・ウェブサイト等で学生へ周知していることは、学習支援環境を積極的に整備している点で、優れていると判断される。
- 中期計画「学生による授業評価を実施し、授業改善に反映する」について、学生の授業評価に基づき、高い評価を得た教員による公開授業の内容をウェブサイト上でも公開したこと、5段階評価で3未満の教員への改善の提言、また公開授業や討論会を実施し、ファカルティ・ディベロップメント（FD）のためにその映像を資料化したことは、学生の行った授業評価を授業改善に導いた点で、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「教員の配置は、充実した教育・指導体制を行うために、専門領域のバランスを考慮し、弾力的な運用を行うとともに必要に応じて教員組織の見直しを図る」について、大学再編成に伴い、平成18～19年度間で約50名の教員配置を実施しており、教育委員会との人事交流、外部人材を特任教授に採用するなどにより人事の改革を断行し、新しい教育・指導体制を構築したことは、大学の再編計画の実施に有効に対応したものであるという点で、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「教育実績に対する評価システムを検討し、整備する」について、教員選考基準に「学校教育を中心とした教育への深い理解」等の基準を追加したことは、教育実績に対する評価システムの活用を意欲的に図り、専任教員の教育意識向上に役立っている点で、特色ある取組であると判断される。

④ 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

（判断理由） 平成16～19年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、2項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、2項目が「良好」、1

項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「学生の修学を財政的に支援する制度を検討する」について、経済界・後援会の協力の下「北海道教育大学教育支援基金」（目標額 1 億円）を設置し、学部生 30 名及び大学院生 18 名の成績優秀者に対して奨学金を付与したことは（平成 18 年度）、学生の修学を財政的に支援する制度を確立した点で、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「学生の自主的な研修、プロジェクト・行事等の活動の支援と、優れた成果や実績に対する表彰をより充実したものとする」について、「チャレンジ・プロジェクト」制度を創設し、学生の自主的な研修、社会貢献等のプロジェクトへの参画を支援するなど、学生の優秀な諸活動を顕彰していることは、特色ある取組であると判断される。

（Ⅱ）研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 「研究に関する目標」に係る中期目標（2 項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

（参考）

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 「研究に関する目標」に係る中期目標（2 項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4 項目）のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、4 項目のすべてが「お

おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「創造的研究の成果を内外の学会や学術誌に発表し、研究の質の向上に努める」について、平成 19 年度において、教員約 400 名の発表した著書・論文数が 494 本、学会発表等数は 544 回となっている。学長裁量経費による学術研究推進経費の充当は研究の進展に役立っており、特色ある大学教育支援プログラム等に平成 16 年度～19 年度にかけて 3 研究プロジェクトが採択されている。また、科学研究費の採択件数状況は漸増傾向にあり、研究の質的向上が図られていることは、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「学際的、文化的な分野における地域の諸課題について研究を推進する」及び「教育研究の幅の広さを活かして取り組む領域」について、各大学教員の共同研究グループにより、「北海道学の創出」をテーマとした研究を実施しており、「人間と地域に関する学際的研究」及び「芸術とスポーツによる人間性開発を重ね合わせた先進的な研究」の研究グループ数が増加している。また、教育、文化をはじめ北海道の地域特性に関する研究、生涯教育及び環境教育に関する地域の人材育成に寄与する研究等、幅広い領域にわたる研究に取り組んでいることは、特色ある取組であると判断される。

② 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 平成 16～19 年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4 項目）のうち、1 項目が「良好」、3 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「良好」、3 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「研究指導・研究実績及び地域貢献や大学が政策として取り組む研究プロジェクトに対し、適切な評価とこれに基づく資金配分を推進する」について、研究業績、大学運営業務、地域貢献活動及び外部資金等の評価に基づき教育研究活性化経費の傾斜配分を行っている。また、学長裁量経費の審査基準を設けて審査の適正化を図るなど研究プロジェクトに対して適切な評価と資金配分の推進を図っていることは、

優れていると判断される。

(Ⅲ) その他の目標

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（2項目）のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(参考)

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（2項目）のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5項目）のうち、4項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、4項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「地域連携推進室を設置し、道・市教委、各種教育現場との連携事業・共同研究、学校支援ボランティア、地域社会との連携事業等を推進する」について、北海道教育委員会、札幌市教育委員会及び北海道教育大学による北海道地域教育連携推進協議会を設立し、各種の地域推進プロジェクトを実施している。「北海道地域教育連携フォーラム」を毎年開催するとともに、自治体、企業、民間団体との連携事業を幅広く展開していることは、優れていると判断される。

- 中期計画「留学生の受入れ、学生の派遣を積極的に行い、学生に対する全学的教育体制の整備を図る」、「開発途上国、北方圏やアジア圏の大学を中心に積極的に教育や研究にかかわる国際協力を実施する」及び「JICA などと協力して、開発途上国の教材開発や教育実践に対する支援プロジェクトの実施と共同研究を推進する」について、「国際交流・協力センター」を設置し、諸外国 12 カ国、26 大学（27 校）にわたる協定大学を始めとした留学生の交換を積極的に実施したほか、「国際協力に関する指針」及びザンビア国立大学との活動方針を制定し、国際協力を実施している。また、国際協力機構（JICA）プロジェクトに協力し、エジプト、スリランカに教員を派遣し、理数科教育の改善や学校運営の改善プロジェクトを推進していることは、国際交流の推進及び開発途上国の教育開発の支援など国際的にも貢献している点で、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「大学及び地域の公共図書館等と連携し、学生、教職員、教育関係者、地域住民が必要とする学術情報を的確に効率よく提供できる図書館を構築する」について、北海道地区の大学及び公立図書館と連携し、北海道教育資料の収集や「釧路湿原特集」等の地域に根ざした資料の収集・展示を行っていることは、社会に対して広く地域の遺産に対する関心を深め、学術研究に導く特色ある取組であると判断される。

② 大学憲章に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「大学憲章に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「おおむね良好」であることから判断した。

＜特記すべき点＞

（特色ある点）

- 中期計画「地域の関係機関及び道民に広く意見を求め、憲章を制定する」について、大学憲章が北海道の地域性に立脚し、大学としての本質と目標について周知を図っていることは、特色ある取組であると判断される。